

清流多摩川に、鮎の魚影。 今年も昨年並みの 1,300万匹の遡上か？



コアジサシ



群れで遡上する鮎



1時間に20匹も食べる
鮎の天敵カワウ。
野鳥と鮎の両立できる道はないかと
関係者の悩みの種に…

今年はやがちょっと小振りでしたが、
5月1日～7日に行われた調布堰調査で、
昨年並みの数を確認しました。
(川崎河川漁業協同組合からの情報により)

2005年の調査開始以来、年々増加して
昨年は国土交通省の調査で1,300万匹もの
鮎が遡上しました。

春から遡上している鮎は、昨年産まれ多
摩川を下った稚魚たちで、東京湾で育ち、
生まれ故郷に戻ってきたもの。鮎は発育に
伴って3月中旬～7月頃まで上流へ移動しな
がら縄張りを確保して成長します。9月～10
月頃になると産卵の準備のため下流域へ下
り中野島～二子あたりの「瀬」と呼ばれる、
川が浅くて波立っている場所の川底の砂利
に卵を産み付け一生を終わります。

川崎河川漁協では、今年も4月12日登戸
水道橋下、高津二子国道246橋下で5万匹
の養殖稚鮎を放流しています。

とん もり や と 里山・飛森谷戸のホタル。 気になる今年の様子は？

毎年多くの人の目を楽しませてくれる飛森谷戸のホタル。
5月11日現在、すでに川の中で
幼虫が光を放っているのを発見しました。

例年5月下旬～6月中旬に、飛森谷戸をはじめ
流域の近隣里山数カ所でホタルが観察できます。



ホタルの見頃は6月10日～16日、20:30くらいまでです。とんもり川(水路)は大変込み合いますので譲り合いの精神で楽しんでください。手づかみや懐中電灯で照らすのは、絶対しないでください「飛んでいるホタルが一番美しいです」を大切にです。昨年は例年の3倍、200匹以上のホタルが観られました・・・今年は何のくらい?この自然をみんなで大切に行きましょう!(飛森谷戸の自然を守る会)